

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2021年11月11日

【四半期会計期間】 第41期第2四半期(自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)

【会社名】 株式会社ハウス オブ ローゼ

【英訳名】 HOUSE OF ROSE Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 池田 達彦

【本店の所在の場所】 東京都港区赤坂2丁目21番7号

【電話番号】 03-5114-5810

【事務連絡者氏名】 業務執行役員 管理本部長 佐藤 哲

【最寄りの連絡場所】 東京都港区赤坂2丁目21番7号

【電話番号】 03-5114-5810

【事務連絡者氏名】 業務執行役員 管理本部長 佐藤 哲

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

| 回次 会計期間 | | 第40期 第2四半期累計期間 | 第41期 第2四半期累計期間 | 第40期 |
|------------------------------|------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| | | 自 2020年4月1日 至 2020年9月30日 | 自 2021年4月1日 至 2021年9月30日 | 自 2020年4月1日 至 2021年3月31日 |
| 売上高 | (千円) | 4,948,609 | 5,323,879 | 10,681,077 |
| 経常利益又は経常損失() | (千円) | 23,661 | 3,884 | 150,434 |
| 四半期(当期)純損失() | (千円) | 120,044 | 48,329 | 67,624 |
| 持分法を適用した場合の投資利益 | (千円) | | - | - |
| 資本金 | (千円) | 934,682 | 934,682 | 934,682 |
| 発行済株式総数 | (株) | 4,703,063 | 4,703,063 | 4,703,063 |
| 純資産額 | (千円) | 5,322,177 | 5,248,448 | 5,344,078 |
| 総資産額 | (千円) | 9,964,668 | 9,227,434 | 9,151,391 |
| 1株当たり四半期(当期)純損失金額() | (円) | 25.53 | 10.28 | 14.38 |
| 潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 | (円) | | | |
| 1株当たり配当額 | (円) | 10.00 | 10.00 | 20.00 |
| 自己資本比率 | (%) | 53.4 | 56.9 | 58.4 |
| 営業活動による キャッシュ・フロー | (千円) | 63,133 | 3,256 | 690,666 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー | (千円) | 7,447 | 295,249 | 3,115 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー | (千円) | 1,854,339 | 226,719 | 828,831 |
| 現金及び現金同等物 の四半期末(期末)残高 | (千円) | 3,038,478 | 2,716,339 | 2,651,066 |

| 回次 会計期間 | | 第40期 第2四半期会計期間 | 第41期 第2四半期会計期間 |
|---------------|-----|-----------------------------|-----------------------------|
| | | 自 2020年7月1日 至 2020年9月30日 | 自 2021年7月1日 至 2021年9月30日 |
| 1株当たり四半期純利益金額 | (円) | 33.42 | 15.35 |

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、1株当たり四半期(当期)純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

なお、当第2四半期累計期間における新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積りについては、ある一定の仮定を置いた上で会計上の見積りを実施し、会計処理に反映しております。

その内容につきましては、「第4 経理の状況 1 四半期財務諸表 注記事項 追加情報」に記載の通りであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期累計期間の国内景気は、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により総じて厳しい状況にある中で、企業収益は業種による好不調の格差が拡大しました。小売業界は、緊急事態宣言や蔓延防止等重点措置の発出並びに度重なる期間延長により、いわゆる「巣ごもり消費」関連商品や通販事業者への需要は堅調に推移した反面、百貨店や大型商業施設では一部休業や時短営業を余儀なくされ、さらには夏場の感染者急増に伴う外出自粛ムードの高まりにより来店客数が大幅に減少する等、厳しい経営環境が続きました。

このような状況の中、当社はネット通販事業の組織強化やハウスオブローゼ直営店舗の活性化と業務効率化を促進する部署を設置する等の組織再編を行うと共に、テナント料の低減を始め様々な経費削減に取り組みつつ、コロナ禍で悪化した業績の回復に努めております。

(直営店商品販売事業)

ハウスオブローゼ直営店は、主に都市部の百貨店や駅ビル等に outlets しているため、緊急事態宣言等による outlets 先の度重なる休業や時短営業の影響及び外出自粛ムード等により、特に都市部を中心に来店客数が想定以上に減少するなど厳しい状況が続きました。前年は4～5月に緊急事態宣言が全国的に発出され売上が急減したため、今期第1四半期売上高は前年同期比で20%増となりましたが、今年は9月まで緊急事態宣言等が継続された影響でその後の売上が伸び悩み、第2四半期累計期間では、前年同期比3.6%増加の結果となりました。一方商品面では、美白関連を中心にスキンケア化粧品が着実に売上伸長し、購買単価の上昇にもつながりました。また新商品では、コロナ禍でのマスク生活に対応した期間限定商品が好調に推移、また9月には人気の高い10h!Babyブランドの新シリーズ商品を第1弾として発売しました。

ネット通販事業は、自社運営サイトが前年4～5月の緊急事態宣言期間中に売上高が急増した反動で、今期の前年同期間売上高は40%強減少しましたが、その後は盛り返し、当第2四半期累計売上高は前年同期比16%減まで回復しました。また新規顧客数は前年の反動で減少しましたが、リピート購入件数及び会員数は着実に増加しました。一方Amazonモール売上高は約50%増と好調に推移し、さらに9月から新たに楽天モールにも出品を開始し育成を図っています。結果、ネット通販事業売上高は、ほぼ前年同期水準を確保しました。

以上の結果、当事業売上高は41億21百万円（前年同期比3.1%増）、営業損失は38百万円（前年同期営業利益37百万円）となりました。

(直営店サービス事業)

リラクゼーションサロン事業は、全て首都圏と関西圏での店舗展開のため、緊急事態宣言発出等を受け、ほぼ全店舗が時短営業となり、一部の店舗で休業となりました。さらに夏場は感染者急増に伴う外出自粛もあり一時的に客数が伸び悩みましたが、店舗においては限定コースやロングコースの需要が伸び、施術単価のアップにつながりました。また、オンライン予約システムの稼働率が上昇し、運営体制の効率化も図ることが出来ました。売上高は、前年4～5月に緊急事態宣言により全店が休業したことから前年同期比36%増となりました。

一方カーブス事業は全店舗が営業を継続しました。前期はコロナ禍で会員数が減少したため、今期は会員数の増加に注力すると共に、退会者の抑制に努めました。本年4月からフランチャイザーであるカーブスジャパンの企画によるテレビコマーシャルの放映に加え、各店の既存会員に対するきめ細かいサポート強化等により退会者数を抑制したことで、会員数は期初比で約690名の純増となりました。売上高は、前年同期がやはり緊急事態宣言により5

月末まで全店休業したこともあり前年同期比45%増となりました。

以上の結果、当事業売上高は5億57百万円（前年同期比40.6%増）、営業利益は32百万円（前年同期営業損失38百万円）となりました。

(卸販売事業)

個人オーナー店舗向け卸売上高は、ハウスオブローゼ直営店と同様の状況にあり、4～5月の売上高が前年同期比で20%強増加したのに対し、6月以降は減少傾向が続き、第2四半期累計期間では同2%の微減となりました。一方大手量販店向け卸売上高は、ボディケア商品を中心としたセルフ型販売の「リラックスタイム」が着実に伸長したことや当社から販売スタッフを派遣している店舗売上高も増加したこと、さらに単品商品卸も販路拡大が進み、前年同期比約5%増となりました。一方中国越境EC売上高は、先行きは不透明ながら現状では持ち直しの傾向がみられ、前年同期比で約92%増となりました。

以上の結果、当事業売上高は6億45百万円(前年同期比16.2%増)、営業損失は2百万円(前年同期営業損失42百万円)となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間における売上高は53億23百万円(前年同期比7.6%増)、営業損失は9百万円(前年同期営業損失44百万円)、四半期純損失は48百万円(前年同期四半期純損失1億20百万円)となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は、27億16百万円(前年同四半期は30億38百万円)となりました。各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は3百万円(前年同四半期63百万円取得)となりました。
これは主に棚卸資産の増加によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果得られた資金は2億95百万円(前年同四半期7百万円使用)となりました。
これは主に投資有価証券の償還による収入によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は2億26百万円(前年同四半期18億54百万円取得)となりました。
これは主に長期借入金の返済による支出によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 12,000,000 |
| 計 | 12,000,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2021年9月30日) | 提出日現在 発行数(株) (2021年11月11日) | 上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名 | 内容 |
|------|--|----------------------------------|------------------------------------|-----------|
| 普通株式 | 4,703,063 | 4,703,063 | 東京証券取引所 市場第一部 | 単元株式数100株 |
| 計 | 4,703,063 | 4,703,063 | | |

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式 総数増減数 (株) | 発行済株式 総数残高 (株) | 資本金増減額 (千円) | 資本金残高 (千円) | 資本準備金 増減額 (千円) | 資本準備金 残高 (千円) |
|--------------------------|-----------------------|----------------------|----------------|---------------|----------------------|---------------------|
| 2021年7月1日～ 2021年9月30日 | | 4,703,063 | | 934,682 | | 1,282,222 |

(5) 【大株主の状況】

2021年9月30日現在

| 氏名又は名称 | 住所 | 所有株式数 (千株) | 発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数の 割合(%) |
|-----------------------------|--------------------|---------------|---|
| 株式会社ワコールホールディングス | 京都府京都市南区吉祥院中島町29番地 | 1,000 | 21.26 |
| 株式会社ローズエージェンシー | 東京都港区赤坂2丁目21番7号 | 518 | 11.02 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口) | 東京都港区浜松町2丁目11番3号 | 266 | 5.66 |
| 株式会社アイスタイル | 東京都港区赤坂1丁目12番32号 | 260 | 5.52 |
| 株式会社日本カストディ銀行(信託口) | 東京都中央区晴海1丁目8番12号 | 74 | 1.58 |
| ハウスオブローゼ従業員持株会 | 東京都港区赤坂2丁目21番7号 | 62 | 1.33 |
| 安原 淳子 | 東京都台東区 | 58 | 1.25 |
| J Pモルガン証券株式会社 | 東京都千代田区丸の内2丁目7番3号 | 41 | 0.89 |
| 永井 たき枝 | 神奈川県横浜市青葉区 | 39 | 0.84 |
| みずほ信託銀行株式会社 | 東京都中央区八重洲1丁目2番1号 | 39 | 0.82 |
| 計 | | 2,361 | 50.22 |

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2021年9月30日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|-------------------|----------|-------------------------------|
| 無議決権株式 | | | |
| 議決権制限株式(自己株式等) | | | |
| 議決権制限株式(その他) | | | |
| 完全議決権株式(自己株式等) | 普通株式 500 | | 権利内容に何ら限定のない当社 における標準となる株式 |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 4,700,800 | 47,008 | 同上 |
| 単元未満株式 | 普通株式 1,763 | | 同上 |
| 発行済株式総数 | 4,703,063 | | |
| 総株主の議決権 | | 47,008 | |

(注) 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己保有株式92株が含まれております。

【自己株式等】

2021年9月30日現在

| 所有者の氏名 又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義 所有株式数 (株) | 他人名義 所有株式数 (株) | 所有株式数 の合計 (株) | 発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%) |
|----------------|-----------------|----------------------|----------------------|---------------------|------------------------------------|
| 株式会社ハウスオブローゼ | 東京都港区赤坂2丁目21番7号 | 500 | - | 500 | 0.0 |
| 計 | | 500 | - | 500 | 0.0 |

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間(2021年7月1日から2021年9月30日まで)及び第2四半期累計期間(2021年4月1日から2021年9月30日まで)に係る四半期財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人により四半期レビューを受けております。

3 四半期連結財務諸表について

「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目からみて、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

なお、資産基準、売上高基準、利益基準及び利益剰余金基準による割合は次のとおりであります。

| | |
|---------|--------|
| 資産基準 | 0.07 % |
| 売上高基準 | - % |
| 利益基準 | - % |
| 利益剰余金基準 | - % |

会社間項目の消去後の数値により算出しております。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

| | 前事業年度 (2021年3月31日) | 当第2四半期会計期間 (2021年9月30日) |
|---------------|-----------------------|----------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 3,081,066 | 3,146,339 |
| 売掛金 | 833,059 | 816,151 |
| 商品及び製品 | 1,448,448 | 1,782,662 |
| その他 | 1,841 | 20,249 |
| 貸倒引当金 | 1,633 | 1,702 |
| 流動資産合計 | 5,362,783 | 5,763,699 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物（純額） | 349,721 | 342,975 |
| 工具、器具及び備品（純額） | 5,245 | 4,196 |
| 土地 | 1,369,668 | 1,369,668 |
| リース資産（純額） | 101,795 | 83,453 |
| 有形固定資産合計 | 1,826,430 | 1,800,294 |
| 無形固定資産 | | |
| 投資その他の資産 | 157,654 | 122,269 |
| 差入保証金 | | |
| その他 | 568,015 | 570,717 |
| 投資その他の資産合計 | 1,236,508 | 970,454 |
| 固定資産合計 | 1,804,523 | 1,541,171 |
| 資産合計 | 3,788,608 | 3,463,735 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 190,585 | 318,517 |
| 電子記録債務 | 261,152 | 510,841 |
| 短期借入金 | 600,000 | 600,000 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 200,000 | 200,000 |
| 未払法人税等 | 66,627 | 66,971 |
| 賞与引当金 | 175,960 | 145,920 |
| その他 | 650,684 | 622,443 |
| 流動負債合計 | 2,145,010 | 2,464,694 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 300,000 | 200,000 |
| 退職給付引当金 | 1,104,760 | 1,122,285 |
| 役員退職慰労引当金 | 86,234 | 91,454 |
| 資産除去債務 | 11,888 | 11,916 |
| その他 | 159,419 | 88,634 |
| 固定負債合計 | 1,662,302 | 1,514,291 |
| 負債合計 | 3,807,312 | 3,978,986 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 934,682 | 934,682 |
| 資本剰余金 | 1,282,222 | 1,282,222 |
| 利益剰余金 | 3,995,938 | 3,880,929 |
| 自己株式 | 655 | 655 |
| 株主資本合計 | 6,212,186 | 6,097,177 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 102,825 | 122,204 |
| 土地再評価差額金 | 970,933 | 970,933 |
| 評価・換算差額等合計 | 868,108 | 848,729 |
| 純資産合計 | 5,344,078 | 5,248,448 |
| 負債純資産合計 | 9,151,391 | 9,227,434 |

(2) 【四半期損益計算書】

【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

| | 前第2四半期累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日) | 当第2四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日) |
|--------------|---|---|
| 売上高 | 4,948,609 | 5,323,879 |
| 売上原価 | 1,444,528 | 1,526,736 |
| 売上総利益 | 3,504,081 | 3,797,143 |
| 販売費及び一般管理費 | 3,548,490 | 3,806,554 |
| 営業損失() | 44,409 | 9,411 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 732 | 565 |
| 受取配当金 | 1,968 | 1,835 |
| 不動産賃貸料 | 381 | 381 |
| 受取給付金 | 2,020 | - |
| 受取助成金 | 17,801 | 7,401 |
| その他 | 4,152 | 1,136 |
| 営業外収益合計 | 27,057 | 11,321 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 6,032 | 5,383 |
| その他 | 277 | 411 |
| 営業外費用合計 | 6,309 | 5,794 |
| 経常損失() | 23,661 | 3,884 |
| 特別利益 | | |
| 受取助成金 | ¹ 182,208 | ¹ 34,249 |
| 特別利益合計 | 182,208 | 34,249 |
| 特別損失 | | |
| 投資有価証券評価損 | 6,245 | - |
| 減損損失 | 488 | - |
| 臨時休業による損失 | ² 264,055 | ² 37,624 |
| 特別損失合計 | 270,789 | 37,624 |
| 税引前四半期純損失() | 112,242 | 7,259 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 41,804 | 42,181 |
| 法人税等調整額 | 34,002 | 1,111 |
| 法人税等合計 | 7,802 | 41,070 |
| 四半期純損失() | 120,044 | 48,329 |

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

| | 前第2四半期累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日) | 当第2四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日) |
|-------------------------|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税引前四半期純損失() | 112,242 | 7,259 |
| 減価償却費 | 86,993 | 66,721 |
| 受取助成金 | 200,009 | 41,650 |
| 減損損失 | 488 | |
| 貸倒引当金の増減額(は減少) | 11 | 69 |
| 賞与引当金の増減額(は減少) | 36,483 | 30,039 |
| 退職給付引当金の増減額(は減少) | 9,713 | 17,525 |
| 役員退職慰労引当金の増減額(は減少) | 5,000 | 5,220 |
| 受取利息及び受取配当金 | 2,701 | 2,119 |
| 支払利息 | 6,032 | 5,383 |
| 投資有価証券評価損益(は益) | 6,245 | |
| 売上債権の増減額(は増加) | 29,604 | 16,908 |
| 棚卸資産の増減額(は増加) | 209,387 | 334,214 |
| 仕入債務の増減額(は減少) | 95,400 | 377,620 |
| 未払消費税等の増減額(は減少) | 6,694 | 103,355 |
| 未払費用の増減額(は減少) | 16,768 | 10,371 |
| その他の流動資産の増減額(は増加) | 10,011 | 18,407 |
| その他の流動負債の増減額(は減少) | 15,164 | 59,420 |
| その他の固定資産の増減額(は増加) | 1,932 | 2,112 |
| その他の固定負債の増減額(は減少) | 7,733 | 1,383 |
| 小計 | 171,115 | 2,045 |
| 利息及び配当金の受取額 | 2,700 | 2,119 |
| 助成金の受取額 | 200,009 | 41,650 |
| 利息の支払額 | 6,032 | 5,383 |
| 法人税等の支払額又は還付額(は支払) | 37,571 | 39,598 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 63,133 | 3,256 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 定期預金の預入による支出 | 430,000 | 430,000 |
| 定期預金の払戻による収入 | 430,000 | 430,000 |
| 有形固定資産の取得による支出 | 10,259 | |
| 投資有価証券の取得による支出 | 2,168 | 2,121 |
| 投資有価証券の償還による収入 | | 300,000 |
| 差入保証金の差入による支出 | 7,217 | 7,606 |
| 差入保証金の回収による収入 | 12,196 | 4,977 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 7,447 | 295,249 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入れによる収入 | 1,500,000 | |
| 長期借入れによる収入 | 500,000 | |
| 長期借入金の返済による支出 | | 100,000 |
| リース債務の返済による支出 | 75,122 | 79,694 |
| 配当金の支払額 | 70,537 | 47,024 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 1,854,339 | 226,719 |
| 現金及び現金同等物の増減額(は減少) | 1,910,025 | 65,273 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 1,128,452 | 2,651,066 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 3,038,478 | 2,716,339 |

【注記事項】

(会計方針の変更等)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これにより、当社が運営するポイントプログラムについては、顧客との契約において付与された重要な追加の財を取得するオプションであるため、将来の財又はサービスが移転する時、あるいは当該オプションが消滅する時に収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第2四半期累計期間の売上高は15,023千円減少、売上原価は3,600千円減少、営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益はそれぞれ11,422千円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は19,654千円減少しております。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前事業年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号2020年3月31日)第28号-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19号及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44号-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症の影響に関し、当社では厳重な対策を実施した上での事業活動を継続しております。

前事業年度の有価証券報告書に記載した重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について、重要な変更はありません。

(四半期損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費の主なもの

| | 前第2四半期累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日) | 当第2四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日) |
|-------------|---|---|
| 給料手当 | 1,131,166千円 | 1,239,073千円 |
| 店舗家賃 | 957,517 | 1,076,895 |
| 法定福利費・福利厚生費 | 278,345 | 304,933 |
| 広告宣伝費 | 213,599 | 233,401 |
| 荷造運搬費 | 232,137 | 224,662 |

2 受取助成金

新型コロナウイルス感染症の影響に伴う特例措置の適用を受けた雇用調整助成金を特別利益に計上しております。

3 臨時休業による損失

臨時休業による損失の主な内訳は、臨時休業中の店舗で発生した店舗スタッフ人件費、店舗家賃、減価償却費等の固定費を計上しております。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

| | 前第 2 四半期累計期間 (自 2020年 4月 1日 至 2020年 9月30日) | 当第 2 四半期累計期間 (自 2021年 4月 1日 至 2021年 9月30日) |
|------------------|--|--|
| 現金及び預金 | 3,468,478千円 | 3,146,339千円 |
| 預入期間が 3 か月超の定期預金 | 430,000 | 430,000 |
| 現金及び現金同等物 | 3,038,478 | 2,716,339 |

(株主資本等関係)

前第 2 四半期累計期間(自 2020年 4月 1日 至 2020年 9月30日)

1. 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|---------------------|-------|----------------|-----------------|-------------|-------------|-------|
| 2020年 5月14日 取締役会 | 普通株式 | 70,537 | 15.00 | 2020年 3月31日 | 2020年 6月 8日 | 利益剰余金 |

2. 基準日が当第 2 四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第 2 四半期会計期間末日後となるもの

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|---------------------|-------|----------------|-----------------|-------------|-------------|-------|
| 2020年11月 4日 取締役会 | 普通株式 | 47,024 | 10.00 | 2020年 9月30日 | 2020年12月 7日 | 利益剰余金 |

当第 2 四半期累計期間(自 2021年 4月 1日 至 2021年 9月30日)

1. 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|---------------------|-------|----------------|-----------------|-------------|-------------|-------|
| 2021年 5月14日 取締役会 | 普通株式 | 47,024 | 10.00 | 2021年 3月31日 | 2021年 6月 7日 | 利益剰余金 |

2. 基準日が当第 2 四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第 2 四半期会計期間末日後となるもの

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|---------------------|-------|----------------|-----------------|-------------|-------------|-------|
| 2021年11月 4日 取締役会 | 普通株式 | 47,024 | 10.00 | 2021年 9月30日 | 2021年12月 6日 | 利益剰余金 |

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

| | 直営店商品 販売事業 | 直営店 サービス事業 | 卸販売事業 | 合計 |
|-----------------------|---------------|---------------|---------|-----------|
| 売上高 | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 3,996,561 | 396,602 | 555,445 | 4,948,609 |
| セグメント間の 内部売上高又は振替高 | | | | |
| 計 | 3,996,561 | 396,602 | 555,445 | 4,948,609 |
| セグメント利益又は損失() | 37,363 | 38,970 | 42,801 | 44,409 |

(注) セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

| | 直営店商品 販売事業 | 直営店 サービス事業 | 卸販売事業 | 合計 |
|-----------------------|---------------|---------------|---------|-----------|
| 売上高 | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 4,121,198 | 557,480 | 645,199 | 5,323,879 |
| セグメント間の 内部売上高又は振替高 | | | | |
| 計 | 4,121,198 | 557,480 | 645,199 | 5,323,879 |
| セグメント利益又は損失() | 38,769 | 32,165 | 2,808 | 9,411 |

(注) セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当第2四半期累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | 合計 |
|-----------------|---------------|---------------|---------|-----------|
| | 直営店商品販売 事業 | 直営店サービス 事業 | 卸販売事業 | |
| 商品 (P B ブランド) | | | | |
| 直営店 | 3,617,520 | - | - | 3,617,520 |
| ネット通販 | 466,989 | - | - | 466,989 |
| 卸売 | - | - | 643,529 | 643,529 |
| その他 | 36,688 | - | 1,670 | 38,358 |
| サービス | | | | |
| リラクゼーションサロン | - | 248,814 | - | 248,814 |
| フィットネス (カーブス) | - | 308,665 | - | 308,665 |
| 顧客との契約から生じる収益 | 4,121,198 | 557,480 | 645,199 | 5,323,879 |
| その他の収益 | - | - | - | - |
| 外部顧客への売上高 | 4,121,198 | 557,480 | 645,199 | 5,323,879 |

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| | 前第2四半期累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日) | 当第2四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日) |
|------------------------|---|---|
| 1株当たり四半期純損失金額() | 25円53銭 | 10円28銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 四半期純損失金額()(千円) | 120,044 | 48,329 |
| 普通株主に帰属しない金額(千円) | | |
| 普通株式に係る四半期純損失金額()(千円) | 120,044 | 48,329 |
| 普通株式の期中平均株式数(千株) | 4,702 | 4,702 |

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

2021年11月4日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次の通り決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額 47,024千円

(ロ) 1株当たりの金額 10円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日 2021年12月6日

(注) 2021年9月30日現在の株主名簿に記載または記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年11月11日

株式会社ハウス オブ ローゼ
取締役会 御中

E Y 新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 新 居 伸 浩

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 堀 井 秀 樹

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ハウスオブローゼの2021年4月1日から2022年3月31日までの第41期事業年度の第2四半期会計期間(2021年7月1日から2021年9月30日まで)及び第2四半期累計期間(2021年4月1日から2021年9月30日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ハウスオブローゼの2021年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき四半期財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。